

2012年 台湾立法委員選挙 選挙区情勢  
(2012年1月3日現在)

作成:小笠原 欣幸

※ 本稿において「現職」とは当該選挙区選出の立法委員を指す。比例区選出の立法委員は「立委」と表記し区別した。「無党籍」の欄は選挙結果に影響のある候補のみを記した。年齢は2011年12月末時点で表記。

県市	選挙区	民進党	国民党	親民党	無党籍	その他	選挙区情勢(全73選挙区)
台北市	一区	楊烈	丁守中	-	-	他3名	国民党の予備選挙は現職の丁守中(57)のみが届出。民進党は候補者選びが難航、歌手の楊烈に立候補を要請。丁守中は当選5回の大ベテラン、外省系で退役軍人組織の支援を受ける。丁守中が安定した戦い。
	二区	姚文智	周守訓	-	-	他3名	国民党現職の周守訓(45)は中央活躍型で、立法院での活動がメディアによく取り上げられ、選挙民サービスもよく地元の評判もよい。外省人第二世代だが自分は親の世代と異なり台湾人だと語る。国民党の予備選挙で市議員陳玉梅(45)が周守訓に挑戦、両者の緊張が高まった。周は元々連戦系で馬英九とは距離がある。陳玉梅は2011年1月の党役員人事で婦女部主任に起用された。周守訓は予備選挙退出の可能性を示唆して反撃、泥沼の対決になる可能性があったが、党中央が介入し陳玉梅は退選した。この選挙区は台北市で唯一緑陣営の基礎票が藍陣営を上回っているため、台北市ではここだけ正式の予備選挙が実施された。民進党は前立委段宜康(48)、前立委羅文嘉(45)、前立委郭正亮(50)、前新聞局長姚文智(46)の4人が予備選挙に届出。段宜康が退選。予備選挙の結果は、姚文智40.53%、郭正亮15.49%、羅文嘉16.20%、支持候補なし27.78%で、謝長廷派の支持を受ける姚文智が圧勝した。姚文智は前回高雄市内の選挙区から立候補したが、小中学校は当選挙区の士林。立法委員選挙が単独で実施されていれば周が一步リードしていた可能性が高いが、同日選挙は姚文智に有利に作用すると考えられる。同日選効果を見込んで姚文智がわずかにリード。
	三区	簡余晏	羅淑蕾	-	-	他1名	国民党の予備選挙は現職の蔣孝嚴(60)に比例区選出の立委羅淑蕾(女、59)と市議員王浩(54)が挑戦。厳しいぶつかり合いとなり、民意調査は僅差で羅淑蕾が上回った。総合点は、羅35.976:蔣35.398という小数点以下の差で羅の勝利となった。直接比較の民意調査では、羅4割、蔣3.5割、王2割という比率であった。蔣は外省人、羅は本省人。曲折はあったが蔣が結果を受け入れ、分裂の危機を乗り越えた。民進党は第二区の予備選挙で敗北した前立委郭正亮が転戦し、地元の市議員簡余晏(女、44)と公認を争った。党中央の指名小組は、両者の民意調査を実施することを決定した。国民党候補との対決式の民意調査では、羅淑蕾が40数%で、郭正亮の23%、簡余晏の25%を大きく上回った。次に、直接比較の民意調査を行ない、簡余晏が36%で郭正亮の29%を上回ったので公認が決定した。簡余晏は独立派の辜寬敏の推薦を受ける。深藍の支持者は浅藍の羅淑蕾に意見を持っているが、泛藍優勢の選挙区情勢を変えるには至らない。羅淑蕾がリードしているが、簡余晏もユニークな選挙戦を展開している。

四区	李建昌	蔡正元	黄珊珊	-	他1名	国民党が予備選挙を実施した時、現職の蔡正元（58）は背信事件で一審有罪判決を受けていたので資格がなかった。市議員李彦秀（女、40）のみが予備選挙に届出。李彦秀は民意調査で30%を超えるという国民党内の指名条件を満たしたが、直後に蔡正元の二審無罪判決が出て振り出しに戻った。やり直しの民意調査の結果は、蔡正元 50.312%：李彦秀 49.688%，わずか0.624の差で蔡の勝ちとなった。蔡正元は本省人。民進黨はベテラン市議員李建昌（49）の擁立を決定。親国民党は知名度のある市議員黄珊珊（女性、42）を擁立。黄珊珊は外省人第二世代、市議員4期目で2010年は第二位当選している。台湾本島の選挙区では親国民党が最も大きな期待を寄せる候補。泛藍優勢区なので、民進黨が漁夫の利を得る可能性はほとんどない。当選3回の蔡正元がリードしているが、スキャンダルを抱え公認をめぐるごたごたもあるので、黄珊珊が追い上げる可能性がある。	
五区	顏聖冠	林郁方	-	-	他5名	国民党の予備選挙は現職の林郁方（60）のみが届出。林郁方は客家。民進黨は、テレビ評論家鍾年晃、市議員顏聖冠（女、43）、陳水扁弁公室前主任陳嘉爵が公認を争い、民意調査により顏聖冠の指名を決定した。泛藍優勢区なので林郁方がリード。	
六区	趙士強	蔣乃辛	陳振盛	-	他6名	前回当選した国民党の李慶安が米国籍を有していた問題で辞職、補欠選挙が行なわれ国民党の蔣乃辛が当選した。国民党の予備選挙は現職の蔣乃辛（63）のみが届出。民進黨は候補者選びが難航。著名な野球選手で中華台北代表選手および監督を務めた趙士強（51）に公認を決定した。趙士強は外省人第二世代。蔣乃辛は本省人。親国民党は元立委陳振盛を指名した。泛藍優勢区なので蔣乃辛が安定した戦い。	
七区	-	費鴻泰	-	潘翰聲	他3名	国民党の予備選挙は現職の費鴻泰（57）のみが届出。民進黨は候補者選びが難航し、独自候補を立てず緑党の候補潘翰聲（41）を支援することを決定した。泛藍優勢区なので、当選2回で外省系の費鴻泰が安定した戦い。	
八区	阮昭雄	賴士葆	李敖	-	他2名	国民党の予備選挙は現職の賴士葆（60）のみが届出。民進黨は候補者選びが難航。民進黨は当初台大経済系教授で、2008年総統選挙で謝長廷のプレーンを務めた林向愷の擁立を検討と報じられたが、最終的に市議員の阮昭雄（41）を指名した。親国民党は元立委の李敖（76）を指名した。李敖は外省人、賴士葆は本省人。泛藍優勢区なので賴士葆が安定した戦い。	
台北県	一区	何博文	吳育昇	余宗珮	-	他1名	国民党の予備選挙は現職の吳育昇（53）のみが届出。選挙区内には国民党系の地方政治家族がいくつかあるが攪乱要因ではない。民進黨はテレビ評論家の何博文を擁立。何は独立派の辜寬敏の推薦を受ける。吳育昇はメディアによく登場する中央活躍型であるがこまめな選挙民サービスでも知られる。吳の女性スキャンダルは選挙に影響しない。吳育昇が安定した戦い。
	二区	林淑芬	錢薇娟	-	-	他3名	緑優勢区であり国民党の予備選挙は誰も届出なし。金溥聰が介入し、女子バスケットボールの名選手錢薇娟（40）の擁立を決定。民進黨の予備選挙は現職の林淑芬（38）に元立委の黄劍輝（46）が挑戦。新潮流派の林淑芬が支持率45.09%で、謝長廷派の黄劍輝の20.12%を上回り、公認獲得。錢薇娟は地元活動が不足。台北県議出身の林淑芬が安定した戦い。

三区	高志鵬	李乾龍	-	-	他2名	国民党の予備選挙は誰も届出なかったが、水面下で動いた新北市政府民政局長の李乾龍（62）が公認獲得。李乾龍は緑陣営優勢の台北県三重市で市長を2期務め人脈も豊富で厚い個人後援会を持つ。民進黨の予備選挙は比例区の立委高志鵬（48）と前立委の周慧瑛（56）が届出。国民党候補李乾龍との対決式民意調査で、周慧瑛 35.53%：李乾龍 34.86%，高志鵬 39.98%：李乾龍 33.73%という結果が出て高志鵬が公認を獲得した。現職の余天と（63）高志鵬との間でポジション交換の談合が早い段階で成立していた。高志鵬は陳水扁系、三重の地縁は薄い。1対1の対決では李乾龍の実力が上と考えられるが、同日選挙効果で高志鵬が浮上する可能性があり、それをおり込み高志鵬がわずかにリード。
四区	林濁水	李鴻鈞	-	-	他2名	国民党の予備選挙は現職の李鴻鈞（52）と新莊区長の許炳崑（55）が届出。これまで協力関係にあった李鴻鈞と許炳崑との水面下の争いが激化。党中央が介入し許炳崑を辞退させ、李鴻鈞を指名した。両者はぎりぎりのところで対決を回避したが、しこりが残るかどうか注目。李鴻鈞は本省人、元親国民党、日台議員交流の中心的人物でもある。民進黨は林濁水（64）のみ届出。新莊が地盤の呉秉叡（45）が林濁水に地盤を譲る形となった。呉秉叡は蘇貞昌重要幕僚で比例区に回った。林濁水は新潮流派の著名な理論家であるが、落下傘候補であり選挙区にどれほど浸透するか疑問もある。1対1の対決では李鴻鈞の実力が上と判断されるが、当選挙区は緑陣営が優勢であり同日選挙効果で林濁水が浮上する可能性もある。五分五分。
五区	廖本煙	黄志雄	-	-	他2名	国民党の予備選挙は現職の黄志雄（35）のみ届出。スポーツ界出身の黄志雄は徐々に地元密着型に転進、夫人の洪佳君も台北県議員・新北市議員に連続当選し、実力をつけつつある。民進黨の予備選挙は前県議員歐金獅（59）、市議員陳世榮（54）、前立委の廖本煙（55）が届出。国民党候補との対決型民意調査の結果、歐金獅 23.41%：黄志雄 43.23%，陳世榮 32.78%：黄志雄 35.99%，廖本煙 37.69%：黄志雄 35.61%で、廖本煙が予備選挙に勝利し公認を得た。前回と同じ組み合わせ。元樹林市長の廖は前回落選後も選挙区活動を続けてきた。藍緑の基本票も互角で、五分五分。
六区	周雅淑	林鴻池	-	-	他1名	国民党の予備選挙は現職の林鴻池（56）のみ届出。林鴻池は板橋の地方政治家出身、板橋市長を2期務めた後立法委員に転進し当選2回、選挙民サービスは周到で地元での評判もよい。民進黨は元立委の周雅淑(女、45)と楊蕙如(女、33)が公認をめぐる競争。楊蕙如は謝長廷系。国民党候補との対決式民意調査は、周雅淑 26.06%：林鴻池 39.96%，楊蕙如 26.19%：林鴻池 41.62%でどちらも林鴻池に及ばなかった。次に、直接比較の民意調査を行なった結果、周雅淑 33.25%，楊蕙如 24.48%で、周雅淑が勝った。本来、台聯の蕭貫譽とさらに民意調査を行なう予定であったが台聯が譲歩したので、民進黨は周雅淑の擁立を決定した。周雅淑は立法委員2期務めたあと7年間のブランクがあるが、子育ての経験をもとに貧困家庭の問題を訴え福祉重視の蔡英文との相乗効果を計る。板橋区は新住民が多く浮動票も多いので総統選挙の影響も受けるが、地元密着型の林鴻池がリード。

七区	羅致政	江惠貞	-	曾文振	-	<p>国民党の予備選挙は板橋区長の江惠貞（女，48），前県議員の曾文振（59），それに現職の呉清池（62）が届出。呉清池は元親民党で，国民党中央の調整は難航した。呉清池と曾文振は競争が不公正だとして予備選挙を退出，曲折を経て国民党は江惠貞の指名を決定した。呉清池は比例区での救済を期待していたが，名簿は21位で当選の可能性はなくなった。曾文振は無党籍で出馬。曾文振は板橋の地方政治家出身で県議員を4期務め，息子の曾煥嘉が新北市議員に当選しているので一定の票を集める可能性がある。江惠貞にとって陣営の結集がカギ。民進党は予備選挙を行わず，東呉大学副教授でメディアに頻繁に登場する羅致政（47）を擁立した。羅致政は独立派の辜寬敏の推薦を受ける。羅致政は知名度が高く高学歴・学者というイメージをアピールし都市部選挙民に浸透する可能性もある。競争は激烈。五分五分。</p>
八区	江永昌	張慶忠	-	邱珮琳	他1名	<p>国民党の予備選挙は現職の張慶忠（60）のみ届出。当選挙区は泛藍優勢区なので民進党内の有力人物は出馬意欲が弱く，党中央は最終的に新北市議員の江永昌（42）を擁立した。張慶忠は選挙に強いが立法院でどのような活動をしているのか情報公開が不足している。監察院の財産申告によれば10億元相当の貯金・有価証券・債権を有しているが，ビジネスの実態もはっきりしない。台北市に隣接する新北市中和区には国民党系の都市部選挙民が多数居住するが，そうした選挙民の期待とはズレがある。こうした状況に異議を唱えるため女性実業家の邱珮琳（54）が「正藍軍」の旗を掲げ無党籍で出馬した。邱珮琳の父親は考試院前院長で国民党長老の邱創煥。邱珮琳は新北市第九区に出馬した雷倩と共同戦線を張り，総統選挙は馬英九支持を表明し，深藍の票を獲得する選挙戦略を立てている。都市部知識層の一定の共感を得ているが，組織のない邱珮琳が票を伸ばせるかは未知数。民進党が漁夫の利を得る可能性はほとんどない。張慶忠がリード。</p>
九区	許又銘	林德福	-	雷倩	他1名	<p>国民党の予備選挙は現職的林德福（58）のみ届出。当選挙区は泛藍優勢区なので民進党内の有力人物は出馬意欲が弱く，党中央は最終的に国際青年商会中華民國総会長を務めた許又銘（41）を擁立した。新党の立法委員を務めた雷倩（女，53）が無党籍で出馬。台北市に隣接する新北市永和区の国民党系の都市部選挙民にターゲットを絞る。永和市長を2期務め地元密着型の林德福がリードしているが，林德福が立法院でどれだけ熱心に活動しているのか不明瞭な印象もある。雷倩は外省人第二世代で父親は海軍中將の雷學明。永和には軍人家族も住む。雷倩が旋風を起こすかどうか観察が必要。民進党が漁夫の利を得る可能性はほとんどない。</p>
一〇区	莊碩漢	盧嘉辰	-	-	他3名	<p>国民党の予備選挙は現職の盧嘉辰（58）のみ届出。盧嘉辰は土城市長を2期務めた地元密着型。民進党内では，前立委の莊碩漢（56）と前大陸委員会副主委の游盈隆（55）が公認獲得を目指した。泛藍優勢区で盧嘉辰がリードしているが，2010年新北市長選挙では蔡英文が善戦している。</p>

	一 一 区	高 建 智	羅 明 才	-	-	-	国民党の予備選挙は現職の羅明才（44）のみ届出。民進黨は党副秘書長の高建智（58）を擁立。藍優勢区なので、羅明才が安定した戦い。
	一 二 区	沈 發 惠	李 慶 華	-	羅 福 助	他 1 名	国民党の予備選挙は現職の李慶華（63）のみ届出。民進黨は予備選挙を行わず前立委の沈發惠（45）を指名した。沈發惠は地元汐止の出身で台北県議員を2期務めている。李慶華が優勢であったが、突如、羅福助（68）が殴り込みをかけてきた。羅福助は新北市11区選出の現職羅明才の父親。1996-2002年に立法委員を2期務めたが任期中何度か騒動があり、その一つは李慶華の妹李慶安との間に発生した。かつて灰色の特定組織を率いた羅福助は国民党系の地方票をある程度獲得する実力があり、李慶華のリードは縮小したと見られる。民進黨が漁夫の利を得る可能性が出てきた。
基隆市	単 一 区	林 右 昌	謝 國 樑	-	張 耿 輝	他 2 名	基隆市には国民党系の地方政治家がいくつか存在する。現職の謝國樑（36）はその中の有力家族の出身で当選2回。中央活躍型の若手で知名度も高い。国民党は早い段階で謝國樑に一本化し良好な選挙態勢を築いたかに見えた。しかし、市議員を3期務めた張耿輝（50）が国民党を離党し無党籍で出馬した。張耿輝は、国民党は長期にわたり基隆市建設を軽視してきたとして国民党を批判を展開している。民進黨は党中央の発言人を務めていた林右昌（40）を指名。林右昌は游錫堃系。2009年基隆市長選挙に出馬し落選したが、泛藍優勢地区の基隆で民進黨候補として最高の得票率を獲得した。謝國樑がリードしていたがその幅は小さくなった模様。
桃園県	一 区	鄭 文 燦	陳 根 徳	-	-	-	国民党の予備選挙は現職の陳根徳（55）のみ届出。陳根徳は国民党本土派、県議会議長を歴任し当選4回のベテラン、地元密着型で地方建設に力を発揮してきた実力者。党内ライバルの前立委林正峰は予備選挙に届出せず出馬を探したが断念。週刊誌で、選挙後陳根徳が立法院副院長になる可能性がある」と報じられた。民進黨は党内有力者の調整がつかず候補擁立が難航した。四区で指名されなかった元職の鄭寶清（56）が出馬表明したが、党中央は県党部主委の鄭文燦（44）の擁立を決定した。鄭文燦は学生運動出身、もともと蘇貞昌系であったが、蔡英文主席から重用され、蔡の幕僚となった。鄭文燦は2009年県長選に出馬し予想以上の得票をあげた。当選挙区は都市住民・流入人口も多い。ややリードする陳根徳を精力的な選挙活動を展開する鄭文燦が追い上げる展開。
	二 区	郭 榮 宗	廖 正 井	-	-	-	前回当選した国民党の廖正井が当選無効判決を受け失職、補欠選挙で民進黨の郭榮宗が当選した。国民党中央にとって廖正井をどう扱うかやっかいな問題であった。国民党の予備選挙は、廖正井（66）、楊梅市長彭聖富（60）、党中央文伝会主委の蘇俊賓（36）が届出した。地元では党中央（金溥聰）が廖正井を押さえ込むため蘇俊賓を送りこんだと見て反発が生じた。党中央は対立を回避するため予備選挙を一時停止。こうしているうち廖正井の裁判で大逆転が生じた。廖の当選無効判決は確定しているが、票の買収をめぐる刑事裁判は一審有罪であったものが、2011年5月26日、二審で無罪判決が出た。国民党中央は方針を変え、廖を指名した。党内は当初混乱

					<p>があったがその後団結が図られているようだ。民進党の予備選挙は現職の郭榮宗（57）のみが届出。予備選挙を回避し一本化に成功した。前回と同じ廖正井と郭榮宗の組み合わせ。廖は客家，郭は閩南系，当選挙区は閩南系が多い。国民党に前回のような追い風が吹くとは考えられず，当選挙区は緑陣営の基礎票が多いので郭榮宗がリード。</p>
三 区	黄 仁 杼	陳 學 聖	劉 文 雄	他 1 名	<p>前回当選した国民党の呉志揚が県長選挙に出馬し当選したので補欠選挙が行なわれ，民進党の黄仁杼が当選した。国民党の予備選挙は元立委の陳學聖（54）と比例区の現職立委鄭金玲（女，65）の対決となった。鄭金玲は中壢出身で客家，以前親民党に所属，比例区だが長年中壢を拠点に活動してきた。厳しいぶつかり合いとなった予備選挙の結果は，陳學聖 54.345%：鄭金玲 45.655%で陳學聖が勝利したが，党内に対立の火種を抱えた。陳學聖は台北市萬華出身の本省人，台北市で立法委員に当選したが再選に失敗。その後高雄に移って市長選挙出馬を目指したが公認を得ることに失敗。その後桃園県の文化局長に就任，補欠選挙に出馬したが黄仁杼に敗れた。当選挙区は泛藍陣営優勢区だが，党内対立で国民党が分裂したことが敗因である。また，客家系住民が比較的多い中壢市で黄仁杼は客家，陳學聖は客家ではなく落下傘候補であったことも一部影響したと考えられる。かつて中央活躍型で台北メディアの寵児であった陳學聖は7年間「浪人」したが，桃園県の党部主委に就任してから地元での活動を積極的に行ない，地元密着型に転進した。また，各種社会団体を長年地道に支援してきた実績もある。民進党は補選で当選した黄仁杼（57）のみが出馬。党内は比較的まとまっている。だが，黄仁杼は県議時代の汚職事件の裁判が進行している。2011年9月一審で有罪判決が出た。この件が影響を与えるかどうかも観察点である。予備選挙で敗北した鄭金玲は国民党の比例区で救済されることを期待していたが名簿に鄭金玲の名前はなかった。鄭金玲は無党籍での出馬を表明したが，呉伯雄の説得を受け入れ出馬を断念。陳學聖に有利な状況になった。同日選挙も陳學聖に有利に作用する。親民党から劉文雄が出馬したが，現時点での影響は不明。陳學聖がわずかにリード。</p>
四 区	黄 適 卓	楊 麗 環	-	他 2 名	<p>国民党の予備選挙は現職の楊麗環（女，54），県議員の萬美玲（女，42），市民代表の林國政（45）が届出した。萬美玲は民意調査直前に退選。楊麗環 67.736%：林國政 32.264%で，楊が順当に勝利。民進党は予備選挙を行わず，前立委の黄適卓（45）を指名した。黄適卓の父親は台聯の初代主席を務めた黄主文。出馬を狙っていた前立委の黄宗源と鄭寶清の両名は不満。両名は非公開の民意調査で黄適卓は3位だったと主張。党内団結ができるかどうかが課題であったがその後改善している。楊麗環は閩南系本省人で，当選3回。立法院で教育問題などを取り上げ活躍する一方で，選挙民サービスも行なっている。しかし，桃園市の国民党票は鉄票とまで言えないので馬英九の不人気は楊麗環に逆風である。前回圧勝した楊麗環であるが，そのリードの幅は小さくなった模様。黄適卓が同日選挙の利を得てどれくらい追い上げるかが注目点である。</p>

新竹県	五区	彭添富	呂玉玲	-	劉邦鉉	他4名	<p>当選挙区は泛藍陣営優勢区なので国民党の予備選挙は激しい競争になった。現職の朱鳳芝（女，63），平鎮市長の陳萬得（58），県議員閻中傑（55），同舒翠玲（女，47），同劉邦鉉（43）が届出した。舒翠玲は民意調査直前に退選。予備選挙の結果，陳萬得 38.19%，朱鳳芝 31.96%，劉邦鉉 14.99%，閻中傑 14.85%で，陳萬得が勝利した。外省人で当選7回の朱鳳芝に世代交代を求める声もあったと思われる。陳萬得は雲林県出身，桃園県の建設業界に影響力を持ち，議長，副議長らと建設利益でつながっていると見られる。しかしその後，陳萬得は恐喝の容疑で起訴され，自主的に退選した。国民党は予備選挙をやり直し，陳萬得の妻呂玉玲（女），県議員劉邦鉉，同舒翠玲の3人が立候補届出した。呉志揚県長および邱奕勝県議長は呂玉玲を支持。最初の予備選挙で負けた朱鳳芝は舒翠玲を支持。民意調査の結果は，呂玉玲 38.027%，舒翠玲 36.696%，劉邦鉉 25.278%で，呂玉玲が1.331ポイント差で勝利した。二度の予備選挙で党内対立は深まり，劉邦鉉は予備選挙が不公正であったとして国民党を離党して無党籍で出馬した。民進党は龍潭が地盤の県議員張肇良（45）が公認を目指したが党中央が介入し前立委の彭添富（60）を指名。彭添富の地盤は桃園沿海地区で，平鎮・龍潭地区ではない。だが，彭添富は地元密着型で選挙民サービスは周到である。彭添富も呂玉玲も客家。同日選挙は呂玉玲に有利に作用すると考えられるが，政治経験のない呂玉玲がどれほど国民党の票を結集できるかがカギとなる。民進党籍の龍潭郷民代表呉平娥（女，38）が党規違反して無党籍で出馬。呂玉玲がリード。</p>
	六区	-	孫大千	-	胡鎮埔	他1名	<p>国民党の予備選挙は現職の孫大千（42）のみが届出。孫は外省人第二世代。国民党が圧倒的に強い選挙区なので民進党は候補者選びが難航した。9月初旬，前陸軍総司令の胡鎮埔（63）が藍緑の立場や政党の枠を超えて軍人の声を政治に反映させたいとして無党籍で出馬宣言。胡鎮埔は外省人で，陳水扁時代に行政院国軍退役兵支援委員会主委（閣僚）を務めた。胡鎮埔と民進党との間で暗黙の協力関係が成立し，民進党は公認候補を立てないことを決定した。退役将軍の胡鎮埔は何の組織もない。民進党支持者，国民党支持者，無党派選挙民，軍関係者のそれぞれに向けた4種類の名刺を使って支持拡大に努めている。選挙区にはかつての部下とその家族が多数居住しているがどれほど集票できるのかは未知数。孫大千がリードしているが，胡鎮埔が水面下で支持を拡大する可能性もあり終盤戦の展開は注目。</p>
	単一区	彭紹瑾	徐欣瑩	-	傅家賢	他1名	<p>前回当選した国民党の邱鏡淳が県長選挙に出馬し当選したので補欠選挙が行なわれ，民進党の彭紹瑾が議席を得た。新竹県は国民党の基礎票が圧倒的に多いが，地方派閥間の対立が根深く足の引っ張りあいがある。国民党の予備選挙では，県議員の林志華（46），同じく県議員の徐欣瑩（女，39），および竹北市長の楊敬賜（58）の3人が争った。徐欣瑩が勝利したがそのプロセスは順調ではなかった。徐欣瑩は地方政治家の出身で，土木工学博士を有し，県議選でトップ当選するなど個人的条件は悪くない。前回無党籍で出馬したので県長派である邱鏡淳派からにらまれたが，公認決定後</p>

						は和解したようだ。前県議長あるいは前県長が出馬しなかったことは徐欣瑩にとって大きな安心材料になった。だが、前議長および前県長の系統から確実に支持を得られるか不安材料もある。民進党は現職の彭紹瑾（54）と県議員邱振璋（37）が公認争いに名乗りをあげたが、新竹を基盤とする党内実力者柯建銘の調整の結果、邱振璋が退選。彭紹瑾は客家，徐欣瑩は父親が客家，母親は閩南系本省人。1対1の戦いであれば彭紹瑾にも勝機はあるが，同日選挙が徐欣瑩に有利に作用すると考えられる。中華民國台灣基本法連線の推薦を受けた傅家賢は宋楚瑜支持を表明。	
新竹市	単一区	張學舜	呂學樟	-	-	他4名	国民党の予備選挙は現職の呂學樟（59）のみが届出。一本化に成功。呂學樟は当選3回，地方建設を強調。民進党は柯建銘が主導し前立委の張學舜（51）を指名した。張學舜は新竹県で立法委員を務めていたが，2年前に新竹市に転入。くら替え出馬であるが，無党籍の市議会議長謝文進と副議長孫錫洲の支持を取り付けた。国民党の基礎票が多いので呂學樟リードだが，意外に票が接近する可能性もある。呂學樟，張學舜ともに客家。
苗栗県	一区	杜文卿	陳超明	-	-	他2名	前回当選した国民党の李乙廷（57）が当選無効判決を受け失職，補欠選挙で無党籍の康世儒が当選した。その後現職の康世儒（47）が交代することで話がつき，国民党の予備選挙は前立委の陳超明（60）のみが届出。劉政鴻縣長や游忠鈿議長ら地元有力者が陳超明を支持，一本化に成功した。民進党は立法委員を3期務め現在苑裡鎮長である杜文卿（57）を指名した。陳超明，杜文卿ともに客家ではない。陳超明が安定した戦い。
	二区	楊長鎮	徐耀昌	-	-	-	国民党の予備選挙は現職の徐耀昌（56）のみが届出。劉政鴻縣長や游忠鈿議長ら地元有力者が徐耀昌を支持，一本化に成功した。民進党は党中央客家事務部主任の楊長鎮（48）を指名。徐耀昌も楊長鎮とともに客家。頭份鎮長を経て立法委員当選3回の徐耀昌が安定した戦い。
台中市	一区	蔡其昌	陳添旺	-	-	他1名	台中県の地方派閥紅派の有力者で現職の劉銓忠（69）は引退を表明。国民党の予備選挙には致用高校校長の陳添旺が届出したが，党中央は別の可能性を探り，立法院の前院長劉松藩の弟で紅派の受けがよい農業金庫董事長劉松齡を担ぎ出そうとしたが説得は不調に終わった。そこで党内手続きに沿って陳添旺1人について民意調査を行ない，基準の30%を超えたので公認を決定した。民進党の予備選挙は前立委の蔡其昌（42）のみ届出。蔡其昌は前回の落選以降この選挙区で地道に活動を続けてきた。党内も団結している。同日選挙は蔡其昌に有利に作用する。民進党が中部の農村でも票を伸ばせるかどうかの指標的選挙区。蔡其昌がリード。
	二区	李順涼	-	-	-	顔清標	国民党は比例区選出の立委紀國棟（51）が予備選挙に届出たが，党中央は無党団結聯盟の現職顔清標（51）に譲る方針を固めていたので紀國棟を説得，紀も応じた。その後紀國棟は比例区の名簿15位に処遇された。民進党の指名プロセスは混迷した。当初，前立委林豊喜（61），前県議員呉富亭（52）らが立候補の意向を表明したが，党中央は，追分小学校校長の李順涼（55）の指名を決定した。李順涼は長年母語教育に力を入れてきた。前回無党籍で出馬しているが，知名度，集票力に疑問がある。顔清標は台中

					県の地方派閥黒派の実力者で地元密着型、事件やスキャンダルではびくともしない。顔清標が安定した戦い。
三区	童瑞陽	楊瓊瓊	-	-	他1名 国民党の予備選挙は現職の楊瓊瓊（女、47）のみ届出。地方政治家族の出身で紅派の有力人物である楊瓊瓊は、事務所ですべてと陳情をさばく地元密着型で、固い後援組織を持つ。民進党の指名プロセスは曲折を辿った。市議員の許水彬（55）と廖述鎮（59）とが公認を争う意向を表明したが、党中央はライオンズクラブ台湾総会会長の童瑞陽（57）を指名した。童瑞陽は台中県沿海地区で童総合医院を運営し、長期に渡り地域医療と公益活動に貢献してきた。童の家族はこれまで選挙で国民党を支援してきたので、引き抜かれた側の楊陣営は危機感が生じている。しかし、童の知名度は高いが、票にどれほど転化できるか疑問もある。楊瓊瓊がリード。
四区	張廖萬堅	蔡錦隆	-	-	他2名 国民党の予備選挙は現職の蔡錦隆（53）のみ届出。民進党は市議員張廖萬堅篤定（46）を指名。張廖萬堅は客家、野球好きとしても知られる。蔡錦隆は市議を経て当選2回の地元密着型。この選挙区は国民党の基礎票が厚く、台中市の建設にも関与している蔡錦隆が優勢である。しかし、張廖萬堅は子供重視の政見と若さを売りにしイメージもよい。市議員選挙では高得票をあげているので、追い上げる可能性がある。民進党が台中の都市部で票を伸ばせるかどうか指標となる選挙区。蔡錦隆のリードの幅は小さくなっている。蔡が逃げ切れるか、大逆転が起きるかどうかが注目。
五区	謝明源	盧秀燕	-	-	他1名 国民党の予備選挙は現職の盧秀燕（女、50）のみ届出。盧は外省系第二世代で当選4回、ニュースキャスター出身だが選挙区サービスも周到。民進党は前回敗れた謝明源（59）が捲土重来で公認を目指した。前市議員の范湫育（50）も出馬を目指したが、党中央は謝明源を指名した。台聯の前市議員劉國隆も立候補の動きを見せたが取りやめた。この選挙区は国民党の基礎票が厚く、盧秀燕が安定した戦い。
六区	林佳龍	黃義交	-	-	他5名 国民党現職の黃義交（58）は元親民党。国民党の予備選挙は、黃義交と前立委洪昭男の子洪子偉が届出したが、洪子偉は署名数が規定に足りず、黃義交が公認された。民進党は前立委の何敏豪（53）、前市長の張温鷹（61）、前総統府副秘書長林佳龍（47）の3人の争いとなった。何敏豪は退選。国民党候補との対決式民意調査の結果は、林佳龍対黃義交の支持率が45.54%：25.87%、張温鷹対黃義交の支持率が36.70%：28.59%で、林佳龍が勝利した。当選4回の黃義交は個人的魅力が武器である。それは中高年の域に入った今も健在であるが、立法院での活躍が多い分選挙区サービスの時間に影響が出る。対する林佳龍は若さと行動力を売りにしている。2005年の市長選挙の失敗後台中で6年間活動を続けてきたことには一定の評価がある。黃義交陣営は前市議会議長の張宏年が応援に走り回り総力をあげて議席死守の態勢。黃義交も林佳龍も閩南系本省人。激烈な競争。林佳龍がわずかにリード。

	七区	何欣純	鄭麗文	段緯宇	-	他1名	<p>前回当選した国民党の江連福が当選無効判決を受け失職。補欠選挙で民進党の簡肇棟が当選した。国民党の指名プロセスは地元組織との調整がうまくいかず難航した。最後は金溥聰が主導し、比例区の立委鄭麗文（女，42）を出馬させる奇策に出た。鄭麗文は父親が外省人，母親は本省人で閩南語は話せるが，選挙区の大理・太平地区に縁がなく落下傘候補である。地元では地方派閥関係者が廖了以秘書長と候補擁立の相談を続けていたので寝耳に水となった。地方組織の整合は困難が予想される。民進党では市議員選挙で最高の得票数を得た何欣純（女，38）が現職の簡肇棟（56）に挑戦しようとしたが，党中央が何を説得して退選させ，簡肇棟への一本化に成功した。簡肇棟がリードする展開であったが，2011年9月11日，簡肇棟は車を運転中に死亡事故を起こし，責任を取るとして立候補を取り下げ立法委員も辞職した。民進党は指名をやり直し，何欣純に決定した。親民党から市議員の段緯宇（56）も出馬。段は外省人第二世代。当選挙区では親民党の影響は少ない。何欣純がリード。</p>
	八区	郭俊銘	江啓臣	陳清龍	車淑娟	他1名	<p>前回圧倒的な強さを見せた国民党本土派の徐中雄（54）は台中市副市長に就任し，この選挙区を離れた。国民党の予備選挙には前県議員車淑娟（女，47）と，同じく前県議員の冉齡軒（女，45）が届出。しかし，党中央は新聞局長の江啓臣（40）を指名しようとしていたので，技術的な候補審査を使って車と冉の届出を取り消した。江啓臣は豊原の出身で，本人は地方派閥と関係はない。民進党は，前立委郭俊銘（56），市議員翁美春（女，48），評論家徐永明（45）ら数名が公認争いに名乗りをあげ，元大陸委員会副主任の邱太三（55）も加わった。民意調査で郭俊銘が勝利。郭は新潮流派，知名度の高いベテランであるが，地元の評判は一樣ではなく，選挙区を変えたことがどうであるか，どの程度の集票力を発揮するか未未知数であった。一方，江啓臣は地縁があり，若くてイメージもよく，党中央の重点的な支援を受けたので，江啓臣が一步リードする展開であった。しかし，不満を抱いていた車淑娟が黒派の有力者の支持を得て無党籍で出馬。黒派には紅派出身の廖了以秘書長にあてつけをする意味もある。紅派と黒派の矛盾および当事者の不満が炸裂し，江啓臣の選挙情勢は厳しいものになった。親民党は無党籍の市議員陳清龍（46）を提名した。車淑娟と陳清龍はある程度の票を得る可能性がある。郭俊銘がリードする展開に変化した。</p>
南投県	一区	張國鑫	馬文君	-	-	他1名	<p>前回当選した呉敦義が行政院長に就任したため補欠選挙が行なわれ，同じ国民党の馬文君が当選した。国民党の予備選挙では，現職の馬文君（女，46）に県議員林昆燿（43）が挑戦しようとした。林昆燿は退選したが火種が残る。馬文君は埔里鎮長を2期務めた。民進党は地元有力者間の調整ができず候補者選びが難航。結局地元からの擁立を断念し，民進党アメリカシリコンバレー党部主委の張國鑫（49）を指名した。張國鑫は地元ではまったく知られていない。呉敦義副総統候補の地元という要因も加わり馬文君がリード。</p>

	二区	賴燕雪	林明濤	-	-	-	国民党の予備選挙で現職の林明濤（60）に集集鎮長の莊瑞麟（51）が挑戦しようとした。林明濤も集集鎮長の経験者であり、激しい対立になるかと思われたが、党中央が介入し莊瑞麟は退選した。国民党は一本化に成功したが、内部の団結には不安材料もある。民進黨は県議員賴燕雪（女、47）と元立委林耘生（39）の2人が指名を争ったが、蘇嘉全が調整に乗り出し林耘生は退選。賴燕雪が民進黨公認候補に指名された。当選1回の林明濤は建設と観光での実績を強調。一方、県議員選挙でトップ当選した賴燕雪は積極的に選挙区を回り世代交代を訴える。林明濤がわずかにリードしているが必ずしも磐石ではない。
彰化県	一区	陳進丁	王惠美	-	林益邦	他1名	国民党の予備選挙は現職の陳秀卿（女、61）、鹿港鎮長の王惠美（女、43）、県議員の阮厚爵（41）、副県長の楊玉珍（女）の4名が届出。ところが、陳秀卿が2011年4月22日死去したため3名の争いとなった。民意調査の結果は、王惠美 45.069%、阮厚爵 33.595%、楊玉珍 21.336%で、王惠美が公認を獲得した。王惠美は県議員3期務めた後鹿港鎮長に転進し現在2期目、地方政治家族出身で一定の基盤を有する。しかし、予備選挙に参加できなかった陳秀卿の息子林益邦が無党籍で出馬。国民党は分裂選挙となった。民進黨は予備選挙を行わず前立委の陳進丁（45）を指名した。陳進丁は元国民党で、1998年に民主聯盟から立法委員選挙に出馬し初当選、2001年は無党籍で当選、2004年は無党団結聯盟から出馬し3回目の当選を果たしたが、前回選挙で落選した。娘の陳秀寶は県議員であり、2010年に父娘ともに民進黨に入党。陳進丁も地方において一定の基盤を有する。王惠美と陳進丁との争いだが、林益邦も後援会の票に加えて同情票を集める可能性がある。陳進丁がわずかにリード。
	二区	黄秀芳	林滄敏	-	-	-	国民党の予備選挙は現職の林滄敏（53）のみ届出。民進黨は予備選挙を行わず県議員の黄秀芳（40）を指名した。藍陣営優勢の選挙区なので林滄敏がリード。
	三区	江昭儀	鄭汝芬	-	-	-	国民党の予備選挙は現職の鄭汝芬（女、54）に溪湖鎮長の陳文漢（50）が挑戦。民意調査の結果は、鄭汝芬 51.5082%：陳文漢 48.492%で、鄭汝芬が僅差で勝利。陳文漢は無党籍で出馬する構えであったが出馬を断念、国民党は一本化に成功。民進黨は候補者選びが難航し、最終的に前立委の江昭儀（68）を指名した。県党部主委を務める江昭儀は、知名度は高いが長老世代に属する。また今回は選挙区を替えての出馬である。鄭汝芬が安定した戦い。
	四区	魏明谷	蕭景田	-	-	-	国民党の予備選挙は現職の蕭景田（57）のみ届出。彰化県は地方政治家族が乱立しているが、この選挙区では巨大な人脈、金、力を持つ蕭景田に挑戦する者はいない。民進黨は前立委の魏明谷（48）を指名。魏明谷は新潮流派、立法委員2期の経験がある。蕭景田が安定した戦い。
							国民党の予備選挙は現職の張嘉郡（女、30）のみ届出。張嘉郡は雲林県地方派閥張派を率いる前県長張榮味の娘。民進黨は副県長の林源泉（53）と前立委の陳憲中（63）の選択肢があったが、陳憲中を指名した。前回と同

雲林県	一区	李進勇	張嘉郡	-	-	-	じ組み合わせとなった。陳憲中は県議を経て立法委員を1期務め知名度も高かったが長老世代に属し、相手の張嘉郡が非常に若いだけに陣営内に不安があった。9月8日、県議会議長の蘇金煌が突然出馬表明を行なった。蘇金煌は張派の有力者であり、張嘉郡陣営に緊張が走った。しかし、蘇金煌は国民党中央の説得を受け入れ10日後に退選を発表した。9月22日、今度は陳憲中が突然退選を発表した。陣営内に行き違いが生じたようだ。民進黨は急遽公認候補の差し替えを迫られ、雲林県出身で基隆市長、雲林県代理県長を務めた李進勇(60)を指名した。緑陣営が優勢な選挙区であり、総統選挙では蔡英文が馬英九を上回る勢いであるが、立法委員選挙は別のロジックが働く。地元では「総統は女性に、選挙区の立法委員も女性に」というロコミが流れている。相当の規模のねじれ投票が発生するであろう。張派の固い基盤を持つ張嘉郡が安定した戦い。
	二区	劉建國	許舒博	-	-	他1名	前回当選した国民党の張碩文が当選無効判決を受け失職、補欠選挙で民進黨の劉建國が当選した。民進黨の予備選挙は現職の劉建國(41)と前立委林樹山(53)が届出たが、林樹山が党中央の説得を受け入れて退選し、劉建國が公認を得た。劉建國は独立派の辜寬敏が推薦。国民党の予備選挙は県党部副主委で中正大学教授の呉育仁(42)が届出。地方実力者で比例区選出の許舒博(48)は届出せず。国民党はイメージ重視の若手大学教授を擁立するやり方を修正し、雲林県地方派閥許派の基盤がある許舒博を出馬させる方針に切り替えた。しかし、馬英九金溥聰体制に不満を持つ許舒博は、父親の元県長許文志が納得していないとして党中央との駆け引きを展開。馬英九が直接父親を説得し、許舒博は7月10日ようやく出馬要請を受け入れた。劉建國は元不良青年だが、県議時代に社会的弱者支援の活動を積極的に行ない一定の評価を得ている。声が政治家向きで、人気もある。立法委員を5期務めている許舒博も強力な候補であるが、緑陣営優勢区なので劉建國がリード。
嘉義県	一区	蔡易餘	翁重鈞	-	-	-	国民党は候補者選びが難航した。予備選挙には現職の翁重鈞(56)を含め誰も届出しなかった。国民党はイメージ重視の若手候補を擁立するやり方を断念し、嘉義県地方派閥黄派の基盤がある翁重鈞を出馬させる方針に切り替えた。しかし、馬英九金溥聰体制に不満を持つ翁重鈞は、引き伸ばし作戦を行ない党中央との駆け引きを展開、9月9日になってようやく出馬要請を受け入れた。条件を出し合ったと見られる。民進黨は予備選挙を行わず、弁護士の蔡易餘(30)を擁立した。蔡易餘は前立委の蔡啓芳の子。奔放なイメージのある父親と異なり地道な選挙戦を展開している。1対1の戦いでは当選6回の翁重鈞に分があるが、当選挙区は緑陣営が優勢で総統選挙では蔡英文が馬英九を上回る勢いにある。同日選挙効果が発生すれば理論的には蔡易餘にも勝機はある。だが、翁重鈞はねじれ投票を誘発させる強力な支持固めができる候補である。前回選挙で翁重鈞が緑系の選挙民(比例区では民進黨や台聯に投じた選挙民)から集めた票の割合は国民党候補の中で最も高かったという実績がある。翁重鈞リードは変わらない。

	二区	陳明文	陳以真	-	-	-	前回当選した民進党の張花冠が県長選挙に出馬するため辞職したので補欠選挙が行なわれ、同じく民進党の陳明文が議席を得た。民進党の予備選挙は、現職の陳明文（57）、溪口戸政事務所主任の孫義村、県議会副議長の張明達（51）、前立委の林國慶（46）の4人が届出。林國慶が退選。民意調査の結果、陳明文 38.35%、張明達 11.98%、孫義村 2.02%で、陳明文が順当に公認を獲得した。国民党の予備選挙は誰も届出なし。候補者選びは難航した。党中央は先に民雄郷農会総幹事涂文生に立候補を打診していたが、金溥聰の主導でイメージ重視の若手候補という路線に切り替え、ニュースキャスターの陳以真（34）を擁立した。陳以真の父親陳鏡堯は耐斯集團の経営幹部、地元でも一定の影響がある。国民党の「刺客」候補の中では条件は非常によいが、この選挙区は緑陣営が優勢なので陳明文が安定した戦い。陳以真が差を縮めることができるかどうかが目点。
嘉義市	単一区	李俊俤	江義雄	-	-	他1名	国民党の予備選挙は現職の江義雄（67）のみが届出。江義雄は教育界出身で当選2回、明治大学法学博士号を擁し地元の中正大学で総務長、法学院長を務めた。実直な印象があり法律相談など選挙民サービスを欠かさない。民進党は比例区の立委涂醒哲（60）、前副市長の李俊俤（46）、市議員の蔡文旭（48）、同じく市議員の黄露慧（44）の4人が指名を争った。黄露慧の父親は市党部主委の黄正男で党中央と若干距離がある。党中央は民意調査を行なったが結果を公表せず、上位2名の李俊俤と涂醒哲との話し合いを優先し李俊俤に一本化した。陣営内に不満を残した。李俊俤の父親は本土派の著名な憲法学者李鴻禧。民進党は台聯との協力区に指定していたが、台聯は民進党に譲ることを決定、泛緑陣営の団結が実現した。嘉義市は藍陣営がわずかに優勢な地区であり江義雄が本来優勢である。だが、同日選挙は江義雄に不利に作用し、世代交代を訴える蔡英文人気に乗って李俊俤が逆転する可能性もある。五分五分。
台南市	一区	葉宜津	歐崇敬	李宗智	-	-	民進党の予備選挙は現職の葉宜津（51）のみが届出。葉宜津は当選4回、選挙民サービスもよく知名度も高い。以前は陳水扁夫妻と近かった。国民党は候補者選びが難航。前台南県副議長の陳宗興、次いで前県議員蔡育輝を擁立との報道があったが決まらず、最終的にはイメージ重視の若手教授という路線を採用し、環球科技大学教授の歐崇敬（44）を指名した。親国民党からは前新營市長の李宗智が出馬した。葉宜津が安定した戦い。
	二区	黄偉哲	周賜海	-	-	他2名	民進党の予備選挙は現職の黄偉哲（48）のみが届出。国民党の予備選挙は前台南県副議長の周賜海（53）のみが届出。党中央は決定を先送りしたが、結局周賜海を指名。黄偉哲が安定した戦い。
	三区	陳亭妃	謝龍介	-	-	他1名	民進党の予備選挙は現職の陳亭妃（女、37）のみが届出。国民党の予備選挙は市議員の謝龍介（50）のみが届出。再選を目指す陳亭妃がリード。
							前回当選した民進党の頼清徳が市長選挙に出馬し当選したので補欠選挙が行なわれ、同じく民進党の許添財が議席を得た。許添財は立法委員を3期、台南市長を2期務めた大ベテラン。民進党の予備選挙は現職の許添財（60）

高雄 市	四 区	許 添 財	蘇 俊 賓	-	-	-	と前市議員の林俊憲（46）が公認を争った。林俊憲は市長の頼清徳の強力な支援を受けた。許添財は「一辺一国連線」に加入、陳水扁派の支持を取り付けた。両者の対立は激化。国民党の景鴻鑫を仮想候補とした対決式の民意調査の結果は、許添財 56.81%：景鴻鑫 10.23%、林俊憲 54.94%：景鴻鑫 11.96%で、許添財の支持率が林俊憲を上回り許添財が勝った。国民党の予備選挙は弁護士の查名邦のみが届出。党中央は查名邦を指名せず別の可能性を探った。前立委の高思博に出馬を働きかけたが不調に終わり、前新聞局長の蘇俊賓（35）を指名した。蘇俊賓の年齢とイメージは許添財と対照的である。許添財は、蘇俊賓が台南に地縁がないことから、蘇俊賓の当選は月に行くより難しいと嘲笑したが、逆に揚げ足を取られ失言となった。蘇俊賓は創意ある選挙活動を展開し差を縮める勢いがあるが、緑優勢区につき許添財のリードは動かない見込み。
	五 区	陳 唐 山	李 全 教	-	-	他 1 名	民進党の予備選挙で、現職の李俊毅（52）と市議員の王定宇（42）が激しく争った。今回の民進党の予備選挙の中で最も激しい対立となった。李俊毅は当選4回のベテランで謝長廷系。王定宇は外省系第二世代、「一辺一国連線」の一員で独立派の支援を受ける。2008年台南の孔子廟を訪れた中国の海協会副会長張銘清を突き倒した事件で知られる。民意調査の結果は、王定宇 32.87%：李俊毅 28.67%で王定宇が勝った。ここで党中央が介入し、喧嘩両成敗で両者とも資格停止処分とした。党中央は、代わりに元県長の陳唐山（76）に出馬を要請すると発表した。独立派で「一辺一国連線」の召集人を務める陳唐山は、予備選挙で勝った王定宇の指名を取り消した党中央を批判したが、最後は指名を受け入れた。国民党の予備選挙は誰も届出なし。党中央は前立委の李全教（51）を擁立した。李全教は立法委員を3期務めた。選挙区内の実力者呉健保も支持を表明し、国民党は意外にまとまった。李全教は県内の高速道路に2箇所設置されている料金徴収場の1つの廃止を掲げる。陳唐山は蔡英文の世代交代のアピールとまったく相反するが、緑優勢区につき、陳唐山が安定した戦い。
	一 区	邱 議 瑩	鍾 紹 和	-	-	-	国民党の予備選挙は現職の鍾紹和（55）のみが届出。鍾紹和は選挙区内の中心地区である美濃の政治家族出身、当選4回のベテランで固い後援会組織を擁する地元密着型。元親民党。民進党の予備選挙は、ともに比例区立委の余政道（48）と邱議瑩（女、40）とが公認を争ったが、余政道が譲り邱議瑩に一本化された。邱議瑩は屏東出身の他県人であるが、美濃出身の高雄市副市長李永得と結婚、美濃の嫁となった。これにより邱議瑩の地縁の不利が利点へと一変し、これまで民進党が弱かった美濃で支持拡大を目指す。鍾紹和は、本丸に攻め込まれる形になった。鍾紹和も邱議瑩もともに客家。邱議瑩は蘇貞昌系であり陳菊系。この選挙区では蔡英文の得票率が馬英九を上回る可能性が高く、同日選挙効果が発生すれば邱議瑩が有利になる。鍾紹和は総統選挙と切り離してねじれ投票を働きかける。邱議瑩は蔡英文と陳菊の影響力を使ってねじれ投票の粉碎を狙う。今選挙屈指の激戦区。五分五分。

二区	邱志偉	林益世	-	-	他1名	国民党の予備選挙は現職の林益世（43）のみが届出。林益世は当選4回、国民党の若手ホープで党の政策委員会執行長（政調会長と国会対策委員長を兼ねたようなポスト）と党副主席を務める。父親は高雄県地方派閥紅派の林仙保。農会・漁会を通じた固い後援会組織を擁する。中央活躍型であり地元密着型である。民進党の予備選挙は、市議員の康裕成（女、55）、同じく市議員の陳明澤（48）、市政府民政局長の邱志偉（39）が届出。陳菊の調整により康裕成と陳明澤が退選、邱志偉に一本化。邱志偉は新潮流派でもともと楊秋興系であったが、高雄市長選挙の党内予備選挙後、楊秋興グループから離反、陳菊系となった。陳菊に推されて出馬したが、選挙経験はない。配偶者は夫が選挙に出るとは考えたこともなかったという日本人。立法委員選挙は林益世、総統選挙は蔡英文に入れるというねじれ投票が相当の規模で発生する見込み。林益世がリード。
三区	林瑩蓉	黄昭順	黎建南	-	他1名	国民党の予備選挙は、現職の黄昭順（女、58）に比例区の立委張顯耀（48）が挑戦し厳しいぶつかり合いとなった。黄昭順は閩南系本省人、張顯耀は外省系第二世代。民意調査の結果は、黄昭順が53.514%、張顯耀が46.486%で、公認は黄昭順に決定した。黄昭順は当選6回の大ベテランだが、2010年の高雄市長選挙では惨敗した。民進党は、市議員の林瑩蓉（女、46）、市政府法制局長の許銘春（女）、比例区立委の余政道（48）の3名が公認を争った。正式の予備選挙ではないが民意調査が行なわれ、林瑩蓉を公認候補とすることが決まった。林瑩蓉は弁護士から市議員に転じ現在2期目、蘇貞昌系。親民党はテレビ評論家黎建南を擁立。固い後援会組織を擁する黄昭順が市長選挙の敗北をものともせず安定した戦い。
四区	林岱樺	邱于軒	-	-	他1名	前回選挙で当選した民進党の陳啓昱が高雄市の副市長に就任したため補欠選挙が行なわれ、民進党の林岱樺が議席を得た。民進党の予備選挙は現職の林岱樺（女、39）のみが届出。林岱樺は新潮流派、立法委員3期目。国民党の予備選挙は、補選で負けたばかりの徐慶煌（35）だけが届出たが、党中央は徐慶煌を辞退させ、邱于軒（女、29）を指名した。邱于軒は一児の母でまったくの新人、広い意味で地方政治家出身にあたるが有力な政治家家族とは言えない。林岱樺が安定した戦い。
五区	管碧玲	羅世雄	-	-	他2名	民進党の予備選挙は現職の管碧玲（女、55）のみが届出。管碧玲は謝長廷系、当選2回。国民党は候補者選びが難航。予備選挙は誰も届出せず。党中央は、前回出馬して敗れた羅世雄（41）を指名。羅世雄は高雄市の地方政治家出身で、立法委員を2期務めた。前回と同じ組み合わせ。管碧玲が安定した戦い。
六区	李昆澤	侯彩鳳	-	-	-	民進党の予備選挙は陳其邁（47）と李昆澤（47）とが届出たが、党中央の調整を受け入れ陳其邁が譲歩した。陳其邁は比例区名簿の安全圏に搭載された。李昆澤は新潮流派で、陳菊高雄市長のおい、立法委員を1期務めた。国民党の予備選挙は現職の侯彩鳳（女、59）のみが届出。李昆澤も侯彩鳳も弱い立場の労働者に関心を寄せるタイプ。侯彩鳳は当選3回。夫黄啓川は客家で、かつて高雄市議会議長を務めた有力人物であり、今も選挙区内

					に一定の影響力がある。前回選挙は、李昆澤と侯彩鳳に加えて民進党の林進興が党規違反で出馬したので緑陣営が分裂選挙となった。民進党にとって林進興およびその家族の動向は不安材料であったが、党中央の説得が功を奏し陣営内の団結が図られた。危機感を抱いた侯彩鳳は7月から選対本部を立ち上げ高雄市建設への貢献をアピール。李昆澤がわずかにリード。
七区	趙天麟	邱毅	-	-	他2名 国民党の予備選挙は、現職の李復興（65）、比例区立委の邱毅（55）、前市議員の王齡嬌（女、45）の3人の争いとなった。党中央の調整により李復興が邱毅支持を表明し退選したので、残る2人について民意調査が実施され、邱毅 55.891%、王齡嬌 44.109%となり、邱毅が勝利した。李復興は、市議員4期、立法委員2期務めた地元密着型でイメージもよかった。比例区での救済を期待していたが名簿に李の名前はなかった。李の支持者が全面的に邱毅の支持に回るか観察が必要。民進党の予備選挙は趙天麟（38）のみが届出。趙天麟は2008年総統選挙で謝長廷の発言人を務めた。市議員2期の経験はあるが選挙はあまり強くなかった。しかし、この選挙に照準を合わせ地道な活動を展開、民進党色を抑え地元密着型のイメージを作っている。一方、邱毅は知名度が高く、毎日のように台北でテレビ討論番組に出演し、メディアを通じた藍緑対決のパフォーマンスで勝負する作戦。12月13日邱毅が隣の選挙区の陳致中と対戦したテレビ討論会は邱毅の失点になったという見方が地元で出ている。都市部選挙民の支持を得るのはどちらなのか、屈指の注目選挙区。趙天麟がわずかにリード。
八区	許智傑	江玲君	-	-	他3名 国民党の予備選挙は現職の江玲君（女、36）のみが届出。江玲君は前回選挙で馬英九ブームに乗り、優勢と見られていた林岱樺を破り、初当選を果たした。特別の親しみやすさがあり、選挙民サービスも熱心、イメージもよい。民進党の予備選挙は前鳳山市長の許智傑（45）のみが届出。許智傑は陳菊派で、鳳山市長時代の都市建設をアピールする。五分五分。
九区	郭政成	林國政	-	陳致中	他2名 国民党の予備選挙は元立委の林壽山（58）のみが届出。しかし、党中央は林壽山ではなく、前回出馬して善戦した市議員の林國政（45）を指名した。民進党の予備選挙は、元高雄市副市長で謝長廷系の林永堅（57）が現職の郭政成（56）に挑戦。民意調査の結果は林永堅 32.78%：郭政成 38.86%で郭が勝った。この選挙区は緑陣営優勢区でありなおかつ深緑支持者が多いので、郭政成が当選確実と思われたが、市議員を失職した陳致中（32）が無党籍で出馬、波乱含みの情勢となった。郭政成は市議員3期を経て立法委員当選3回。一部では、年齢以上にベテランという印象を持たれている。また、選挙民サービスが十分かどうか多様な声がある。林國政は前回落選後、選挙区回りを続けてきた。陳致中は数々のスキャンダルを抱えながら2010年市議員選挙でトップ当選した。当初、陳水扁に同情的な一部民進党支持者の票を集めるだけと思われたが支持を拡大しつつある。邱毅とのテレビ討論会では意外にも健闘したという見方が出ている。陳致中が民進党公認候補の郭政成を上回るとは考えにくい、林國政が漁夫の利を得て当選する可能性が出てきた。郭政成と林國政とが五分五分の戦い。

屏東県	一区	蘇震清	羅志明	-	-	他2名	民進党の予備選挙は現職の蘇震清（46）のみが届出。国民党の予備選挙は前立委の羅志明（54）のみが届出。それぞれ公認を獲得した。羅志明は屏東県出身で客家。高雄市で立法委員を2期務めた。2回とも台聯の公認候補として当選したが2009年に国民党に復党した。蘇震清が安定した戦い。
	二区	李世斌	王進士	-	-	-	国民党の予備選挙は立法院副院長の曾永權（64）と比例区立委の廖婉汝（女、51）が出馬の動きを見せたが届出せず、現職の王進士（63）のみが届出、王進士に一本化された。民進党の予備選挙は、3名の県議員蘇義峰（54）、李清聖（46）、李世斌（49）、および、屏東県税務局長の施錦芳（女、51）が届出。国民党の王進士を想定した対決式民意調査の結果は、李世斌のみが38.97%：36.19%で王進士を上回り、李世斌が公認を得た。前回と同じ組み合わせ。李世斌は県議員3期目、客家。この選挙区は前回と異なり緑陣営がやや優勢の状況に転じたと見られるが、李世斌の選挙区経営が十分かどうか疑問もあり、同日選効果が発生するか見方が分かれる。屏東市長経験者で地元密着型の王進士にはねじれ投票を誘発する力があり、王進士がわずかにリード。
	三区	潘孟安	龔瑞維	-	-	他1名	民進党の予備選挙は現職の潘孟安（48）のみ届出。国民党は誰も届出せず。候補者選びは難航し、途中で前回も出馬した東港安泰医院の院長蘇清泉を擁立と報じられたが、結局、イメージ重視の若手教授路線で正修科技大學助理教授の龔瑞維（49）が指名された。龔瑞維は、父親龔新通が恆春鎮の元鎮長というだけで政治経験なしの新人。潘孟安が安定した戦い。
宜蘭県	単一区	陳歐珀	林建榮	-	-	-	国民党の予備選挙で前県長の呂國華（55）と現職の林建榮（65）が争うところであったが直前で呂國華が譲り対立は回避された。林建榮は宜蘭市長を経て立法委員当選4回のベテラン。民進党の予備選挙は、前立委の陳金徳（50）、県政府秘書の陳歐珀（50）、医師の黄建財、県議員の謝志得（43）の4名が予備選挙に届出。民意調査の結果は、陳金徳10.76%、陳歐珀26.61%、黄建財15.57%、謝志得が4.73%となり、陳歐珀が勝利し党の公認を獲得した。民進党が2009年県長選挙で県政を奪還した勢いを維持できるかがカギ。1対1の戦いであれば知名度・実績で上回る林建榮が有利だが、同日選挙は民進党に有利に作用する。陳歐珀がわずかにリード。
花蓮県	単一区	賴坤成	王廷升	-	-	張智超 他1名	前回国民党公認候補として当選した傅崑萇が県長選挙に出馬し当選したため補欠選挙が行なわれ、国民党の王廷升が議席を得た。傅崑萇は党規に違反し無党籍で県長選挙に出馬したため国民党から除名された。国民党の予備選挙は、現職の王廷升（46）と県長派の県議員何禮臺（49）が届出たが、何禮臺は予備選挙の方法が不公正であるとして退選し、王廷升が公認を得た。しかし、国民党と冷戦状態にある傅崑萇県長は県政府農業発展處長の張智超を擁立し議席獲得を狙う。民進党は、補欠選挙で出馬し善戦した蕭美琴（女、40）ではなく、台東の予備選挙で敗れた賴坤成（47）を指名した。賴坤成は謝長廷系、台東市長を2期務めたが花蓮の地縁は乏しい。泛藍陣営は分裂選挙となったが、民進党が漁夫の利を得ることは難しい。わずかにリードする王廷升を張智超が追い上げる展開。

台東県	単一区	劉權豪	饒慶鈴	-	吳俊立	他2名	<p>前回当選した国民党の黄健庭が県長選挙に出馬するため辞職したので補欠選挙が行なわれ、民進党の頼坤成が議席を得た。これは台東県で民進党が獲得した初の議席となった。国民党の予備選挙は、前県議長で現県議員の李錦慧（56）と県議員の李建智（52）が届出。李建智が退選したので、李錦慧1人について民意調査が行なわれたが、李錦慧は30%を超えるという指名条件を満たさなかった。党中央は、イメージのよい県議会議長の饒慶鈴（女、42）の説得に動き、しぶる饒慶鈴の擁立に成功した。民進党の予備選挙は、現職の頼坤成（47）に前副県長の劉權豪（44）が挑戦した。両者は過去の選挙をめぐりライバル関係にある。国民党の饒慶鈴を仮想候補とする対決式民意調査の結果、劉權豪 42.86%：饒慶鈴 23.94%，頼坤成 39.75%：饒慶鈴 28.63%となり、劉權豪の支持率が上回った。頼坤成は民意調査の対象に問題があるとして党に仲裁を申し立てたが入れられず、劉權豪が公認を得た。台東県は藍陣営優勢区であるが、地方政治家族間の確執が深まり、選挙情勢は複雑化している。ここ数年は、吳俊立・鄭麗貞夫婦（ともに県長を務めた）と国民党中央の間に摩擦があった。饒慶鈴は若手、高学歴、父親が立法院副院長を務めた饒穎奇で知名度が高いという好条件を備えているが必ずしも高い支持につながっていない。加えて、吳俊立が党紀に違反して無党籍で出馬したため苦戦に陥った。裁判官出身の劉權豪は一貫して民進党員。県長選挙に連続出馬したので知名度があり、また、前回の惜敗により同情票も期待できる。毎日街頭に立つ選挙活動で地道に支持を訴える。台東県でまったくの弱小勢力であった民進党が国民党地方派閥のしがらみに風穴を開け勢力を拡大させることができるかどうか注目の選挙区。劉權豪がわずかにリード。</p>
澎湖県	単一区	楊曜	-	-	林炳坤	-	<p>国民党は前回に続いて無党団結聯盟の現職林炳坤（63）に譲った。林炳坤は当選5回の大ベテラン、澎湖の観光と建設への貢献をアピールする。民進党は県議員で県党部主委を務める楊曜（45）を擁立した。林炳坤が安定した戦い。</p>
金門県	単一区	-	楊應雄	陳福海	吳成典	他2名	<p>国民党の予備選挙は、県議員の楊應雄（54）、前県議長の謝宜璋（44）、県政府社会局前局長の許乃權、国立金門農工校長陳水芳の4名が届出。予備選挙の結果は、楊應雄 39.973%，陳水芳 34.157%，謝宜璋 25.870%で、楊應雄が公認を獲得した。許乃權は予備選挙を辞退し、無党籍で出馬。親民党は、前回無党籍で当選した現職の陳福海（48）を指名。新党は当選挙区で2回当選している前立委の吳成典（54）を指名。民進党は候補を立てないことを決定した。金門県は毎回恒例で泛藍陣営内の争いとなる。親民党に議席獲得の可能性はある。</p>
連江県	単一区	-	曹爾忠	陳雪生	陳財能	-	<p>国民党の予備選挙は現職の曹爾忠と前県長の陳雪生が届出。当選5回の曹爾忠が国民党公認候補に指名された。陳雪生は予備選挙を退選、無党籍で出馬。民進党は候補を立てないことを決定。連江県も毎回恒例で泛藍陣営内の争いである。</p>

## 原住民選挙区(全6議席)

	民進党	国民党		親民党	無党籍その他	
	-	廖國棟	鄭天財	林正二	-	他7名
平地原住民 (3議席)	候補者はすべてアミ族出身。民進党は候補を擁立することができなかった。国民党の2候補と親民党の1候補で事実上決まったという見方が多い。廖國棟(56)は当選3回。鄭天財(55)は国民党の立法委員を4期務めた現職楊仁福から地盤を受け継いだ。林正二(59)は当選4回のベテラン。前回選挙後買収の容疑で当選無効判決を受け失職したが、親民党に貴重な1議席をもたらす可能性が高い。					

	民進党	国民党		親民党	無党籍その他	
	曾智勇	孔文吉	簡東明	瓦歷斯・貝林	高金素梅	他1名
山地原住民 (3議席)	無党団結聯盟の高金素梅(女, 46)は当選3回, 高い知名度と資金源を擁し, 安定した戦いという見方が多い。残る2議席を国民党の孔文吉, 簡東明, 親民党の瓦歷斯・貝林が争う展開。孔文吉(54)はセデック族出身で当選2回。簡東明(60)はパイワン族出身で当選1回。瓦歷斯・貝林(59)はセデック族出身で立法委員を4期, 行政院原住民族委員会主委(閣僚)を務めたベテラン。親民党が原住民選挙区で2議席目を獲得できるか注目。					

【注】73選挙区の「選挙区情勢」の評価の方法は次の通りである。①前回選挙結果の国民党候補の得票率から5ポイント減らし, 民進党の得票率に5ポイント加えた数値を今回の両党の候補者の得票率の目安とする。②2009年県市長選挙・2010年五都市長選挙の数値を各選挙区の両党の得票率に転換し①と比較対照。③新聞報道および関係者の話を総合して各候補の強さ・弱さを比較検討。④さらに「同日選効果」および「ねじれ投票」の可能性を検討。これらを総合的に判断し, 「安定した戦い」, 「リード」, 「わずかにリード」(逆転の可能性あり), 「五分五分」の4種類の評価にまとめた。これは, 現職が再選を目指す選挙区がモデルであり, 無党籍候補が影響を及ぼす選挙区, 前回と構図が異なる選挙区は別途検討した。原住民選挙区は制度が異なるので別途記載した。

【謝辞】過去4年間に以下の立法委員・前立法委員・立法委員候補者から話を聞く機会を得た。1票の得にもならない外国人研究者の面会のために時間を割いてくれた政治家のみなさんには大変感謝している。[敬称略]  
周守訓, 簡余晏, 徐國勇, 林郁方, 吳育昇, 李乾龍, 高志鵬, 李鴻鈞, 鄭文燦, 陳學聖, 楊麗環, 黃適卓, 彭添富, 胡鎮埔, 徐欣瑩, 彭紹瑾, 蔡其昌, 楊瓊瓔, 童瑞陽, 張廖萬堅, 黃義交, 林佳龍, 鄭麗文, 簡肇棟, 江啓臣, 郭俊銘, 吳敦義, 林明溱, 陳憲中, 許舒博, 張碩文, 劉建國, 陳明文, 江義雄, 葉宜津, 賴清德, 蘇俊賓, 邱志偉, 林瑩蓉, 管碧玲, 侯彩鳳, 趙天麟, 李復興, 江玲君, 許智傑, 劉權豪, 王金平, 曾永權, 洪秀柱, 帥化民, 李嘉進, 吳秉叡, 田秋堃, 蕭美琴, 陳其邁, 陳瑩, 王幸男。  
他にも多くの政党関係者, 候補者の事務所関係者から話を聞く機会を得た。合わせて感謝の意を表したい。